

肢体不自由特別支援学校における カリキュラム・マネジメントの実施状況に関する調査報告

—実施上の困難さとミドルリーダーの役割に着目して—

池田 彩乃¹⁾・小倉 靖範²⁾・菅野 和彦³⁾

1)山形大学地域教育文化学部 2) 愛知教育大学特別支援教育講座 3)文部科学省

肢体不自由特別支援学校にあつては、他の障害種の特別支援学校以上にカリキュラム・マネジメントに取り組むことに難しさがあると考えられる。しかし、その具体的な取組内容や取り組んだ経緯、推進する上での課題等については、十分に明らかにはされていない。そこで本研究では、校内でカリキュラム・マネジメントの中心的な役割を果たす教師を対象とした調査を通して、肢体不自由特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施状況について明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントを促進するミドルリーダーの役割意識を検証することを目的とした。実施上の困難さにおいては、カリキュラム・マネジメントに対する教職員の意識の低さや理解不足、負担増加などの課題が挙げられ、学校課題の優先順位を見極めた上で、教職員の意識改革を図ることの重要性が明らかになった。また、ミドルリーダーは校内において教職員同士、管理職と教職員、校務分掌同士、校務分掌と研究を「つなぐ」意識を抱いていた。本調査より、特別支援学校においては、学校課題に解決に向けて「協働性」を基盤としたカリキュラム・マネジメントを進める必要があることが示唆された。

キーワード： 肢体不自由特別支援学校 カリキュラム・マネジメント 教育課程の改善 協働性
ミドルリーダーの役割

1 問題の所在と目的

2017年の学習指導要領改訂を受け、全国の学校ではカリキュラム・マネジメントの取組が進められている。カリキュラム・マネジメントの目的である「児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し、編成した教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」（文部科学省、2017）という点は、特別支援学校も小・中学校等と同様であり、①教科等横断的な視点での取組、②教育課程の実施状況の評価と改善、③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保が求められる。

一方で、特別支援学校は、教育課程の編成において各学校の裁量に任される部分が大きく、学校運営や組織体制上からカリキュラム・マネジメントの取組は、様々な面で小・中学校等とは異なる。そのため、特別支援学校学習指導要領には、「児童又は生徒に何が身に付いたのかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること」（文部科学省、2017）が、4つ目の側面として示されている。このことから、特別支援学校においては、個別の指導計画におけるPlan-Do-Check-Action（以下、PDCA）と教育課程のPDCAが連動するシステムを構築することが、カリキュラム・マネジメントを進める上での要点となる。

武富（2018）は、特別支援学校の独自性として、教育課程の枠組が小・中学校等とは異なり、各教科等を合わせた指導が設定できることや特別支援学校の教育課程に特徴的な自立活動があることなどを挙げている。また、同一校に複数の学部や学科等を有していることから、カリキュラム・マネジメントが

多様かつ複雑に絡み合っていると述べている。さらに小倉(2022)は、個別の指導計画に複数の教職員が関与し、ティーム・ティーチングによる指導が主流となる特別支援学校にあっては、教職員同士の協働が、小・中学校等以上に求められ、児童生徒の自立と社会参加を見据えた教育の質的向上と教職員間の「協働性」の構築を両立させたカリキュラム・マネジメントが必要となることを指摘している。

これらの要因に加え、在籍する児童生徒の障害の状態が重度・重複化、多様化する肢体不自由特別支援学校にあっては、教育課程を類型化している学校が多く、カリキュラム・マネジメントを進める上で、学校全体に共通する課題のみならず、各類型における教育課程編成上の課題を踏まえることが求められる。その上で、個別の指導計画を通して「個の課題」を焦点化する視点と年間指導計画などを通して「学校として教えるべき教育内容」を精査する視点を持ち、両者をつなげるシステムを学校として構築することで教育課程を軸とした学校教育の改善・充実を図る必要がある(池田, 2022)。

このような現状を鑑みると、肢体不自由特別支援学校においては、他の障害種の特別支援学校に比べてカリキュラム・マネジメントに取り組むことに、より一層の困難が伴うことが危惧される。しかしながら、各学校において取り組まれているカリキュラム・マネジメントの具体的な内容や取り組んだ経緯、推進する上での課題等については、学術的に十分に検討されているとは言い難い。これまで、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントは、各学校における取組を中心に、書籍や教育雑誌に実践事例として紹介されているものの、方法論を一般化して整理したものは数少ない。

そこで本研究では、特別支援学校内でカリキュラム・マネジメントの中心的な役割を果たす教師を対象とした調査を通して、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施状況について明らかにする(研究1)とともに、カリキュラム・マネジメントを促進するミドルリーダーの役割意識について検証する(研究2)ことを目的とした。

なお、研究を実施するに当たって、カリキュラム・マネジメントに関わる先行研究を整理し、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントモデルを考案した。

2 「特別支援学校版カリキュラム・マネジメントモデル」の考案

小・中学校等のカリキュラム・マネジメントにおいては、田村ら(2011・2016・2020 他)によって開発された「カリキュラムマネジメント・モデル」(Fig. 1)を基にした取組が数多く報告されている。また、同じく田村が作成した「カリキュラムマネジメント チェックリスト」を用いた数値的な評価なども行われている。

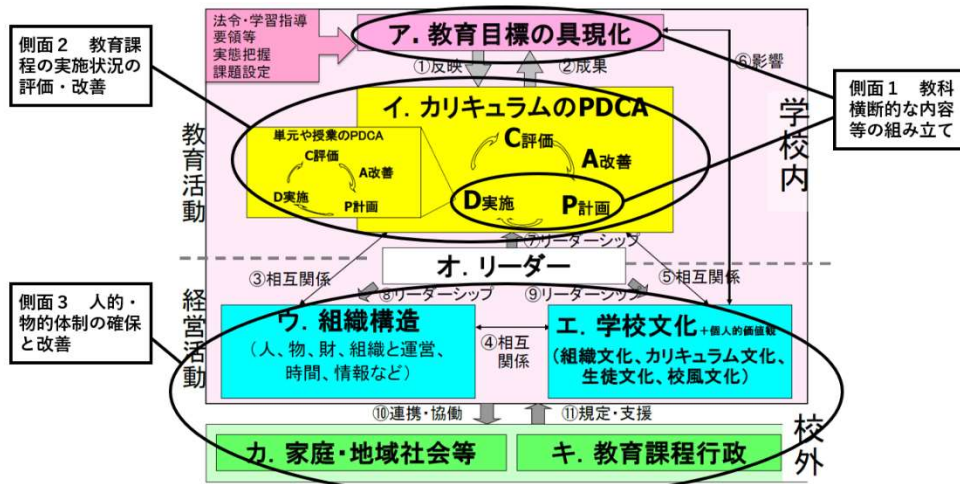


Fig. 1 田村ら(2011・2016・2020 他)によって開発された「カリキュラムマネジメント・モデル」

「カリキュラムマネジメント・モデル」では、カリキュラム・マネジメントの実現における留意すべき7つの要素として、「ア. 教育目標」、「イ. カリキュラムのPDCA」、「ウ. 組織構造」、「エ. 学校文化」、「オ. リーダー」、「カ. 家庭・地域社会等」、「キ. 教育課程行政」を挙げ、これらの要素をトータルにマネジメントしながら、教育目標のより良い実現を目指す必要性を指摘している。

本研究では、特別支援学校が目指すべきカリキュラム・マネジメントの定義を「カリキュラム・マネジメントを行う上で留意すべき7つの要素を明確に示し、それらをより良く改善していくために、チーム学校という関係者全員の『協働性』の下に創り上げていく“総合力(実績)”(三浦・山口・小倉, 2022)とし、Fig.1 に示した「カリキュラムマネジメント・モデル」を改良した「特別支援学校版カリキュラム・マネジメントモデル」を考案した (Fig. 2)。このモデルの独自性は、以下に示す点である。

- ① 特別支援学校においては、同学校内に学部が複数あるため、学校の教育目標の具現化の下に学部の教育目標の具現化を追加した。
- ② 特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントでは、「個別の指導計画と教育課程が連動するシステムの構築」が要点となることから、「イ. カリキュラムのPDCA」の枠内に、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を追加した。
- ③ 特別支援学校においては、教職員以外にも多様な職種が教育活動に携わり、教職員においても小・中学校等の経験の有無や経験した障害種の違いなど各個人の背景も異なることから「エ. 学校文化」の枠内に個人的価値観（教育観や指導観など）を追加した。
- ④ 学校と関係機関の連携の役割を果たす個別の教育支援計画を追加した。

なお、肢体不自由特別支援学校においては、各学部の中に複数の教育課程が編成されていることから、

カリキュラム・マネジメントがより複雑な様相を呈していると言える。また、個別の指導計画の作成等に複数の教職員が関与し、ティーム・ティーチングによる指導が主流となる特別支援学校の授業作りにおいては、校内における教職員間の「協働性」を構築することが小・中学校等よりも期待される (小倉, 2023)。

田村 (2011) は、カリキュラムマネジメントにおけるマネジメント面の基軸は、「協働性」であるとした上で、学校内に協働的な組織文化を醸成することの必要性を指摘し、そのポジティブな組織文化づくりに果たす校長の役割は大きいと述べている。加えて、学部主事といった小・中学校等と異なる役職が置かれている特別支援学校においては、教職員全員の学校経営への参画意識を高め、「協働性」を基盤としたカリキュラム・マネジメントを進めるためには、ミドルリーダーとなる教員の役割も重要なファクターになると考えられる。

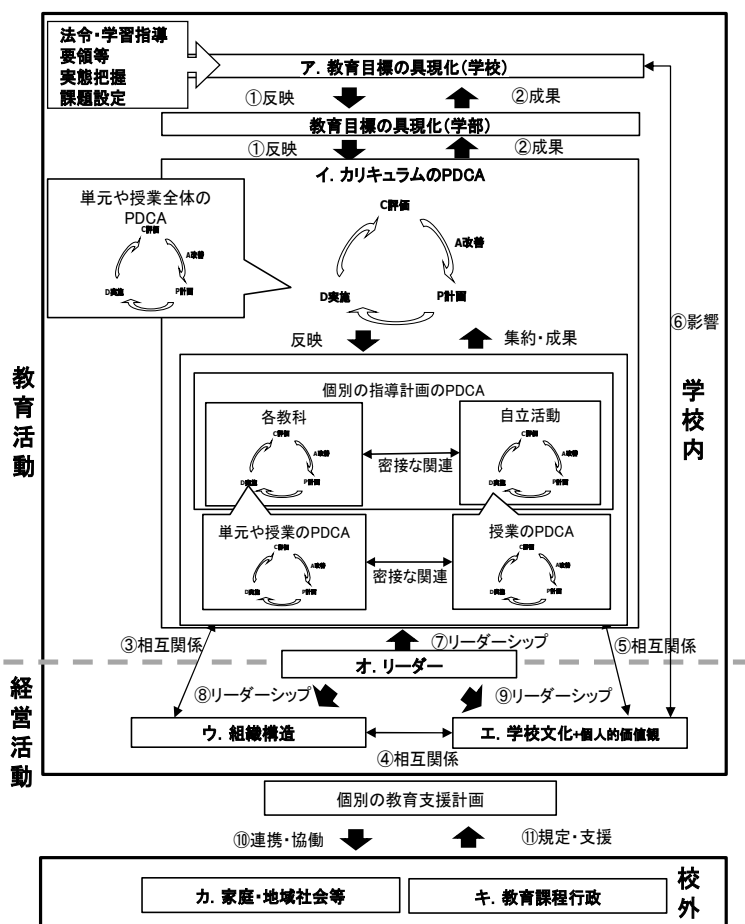


Fig. 2 特別支援学校版カリキュラム・マネジメントモデル

3 研究1（質問紙調査）

（1）対象

A地方の肢体不自由特別支援学校全11校においてカリキュラム・マネジメントの中心的な役割を果たす教師（教務主任等；以下，ミドルリーダー）11名を対象とした。

（2）手続き

対象校の学校長に依頼書を送付し、「カリキュラム・マネジメントを中心的に実施している教諭」である対象者を1名選定してもらった。対象者に対して自由記述式の質問紙調査を実施した。自由記述で得られた回答については、文意が変わらないように注意しながら、同じ内容の回答について共通する用語でまとめる作業を行った。作業は特別支援教育分野の研究者2名で実施し、解釈が分かれる箇所については適宜協議し、調整した。

（3）質問紙の構成

質問紙の構成をTable 1に示した。回答者のプロフィール，経緯，取組内容について尋ねた。取組内容に関しては，菅野（2019）等を参考に，①～⑧の観点別に具体的な取組内容と実施に当たったの困難さについて記述を求めた。

Table 1 質問紙の構成

プロフィール項目
性別，教職経験年数，肢体不自由校の勤務経験年数，教務主任としての経験年数
経緯
始めた時期，きっかけ※，始めに取り組んだ内容※
取組内容と困難さ※
①学校の教育目標に関すること，②教育課程の実施状況の評価と改善に関すること，③人的・物的な体制整備に関すること，④個別の指導計画に関すること，⑤教育の内容に関すること，⑥授業時数や時程（時間割を含む）に関すること，⑦学習評価の改善（指導と評価の一体化）に関すること，⑧その他

※の質問項目については自由記述での回答を求めた。

（4）調査実施期間

20XX年1月～2月に実施した。

（5）結果と考察

発送部数11部，回収部数11部（回収率：100%）であった。

①プロフィール項目：対象者の性別は，男性5名（45.5%），女性6名（54.5%）であった。教職経験年数の平均は27.67年（SD=4.1）であり，肢体不自由校の勤務年数の平均は9.21年（SD=4.6），教務主任としての経験年数の平均は3.11年（SD=1.8）であった。

②経緯：カリキュラム・マネジメントの取組を始めた時期についてはTable 2に，きっかけについてはTable 3に示した。各校のカリキュラム・マネジメントは，現行の特別支援学校学習指導要領が告示された平成29年度から取り組まれ始めていた。きっかけについても，学習指導要領の改訂や全面実施が契機となった学校が9校と最も多かった。

Table 2 取り組みを始めた時期

・平成29年度から	・・・・	2校
・平成30年度から	・・・・	3校
・平成31年度（令和元年度）から	・・・・	1校
・令和2年度から	・・・・	2校
・令和3年度から	・・・・	1校
・令和4年度から	・・・・	1校
・その他（未記入）	・・・・	1校

Table 3 きっかけ

・学習指導要領の改訂や全面实施	・・・・	9校
・観点別評価の実施	・・・・	2校
・校内研究の取組と連動して	・・・・	1校
・理解不足のために校内が混乱していたため	・・・・	1校
・学びの連続性の確保が必要だったため	・・・・	1校
・一人一人の障害の状態等に応じた指導の充実が必要だったため	・・・・	1校
・個別の教育支援計画，個別の指導計画の作成量の見直しが必要だったため	・・・・	1校
・自身が教務主任になったため	・・・・	1校

※自由記述で回答を求めたため，複数回答を含む。

③取組内容と困難さ：各校におけるカリキュラム・マネジメントの具体的な取組内容と実施に伴った困難さについて，一覧をTable 4に示した。中でも，小・中学校等と比較し，特別支援学校における独自性のある取組については太字で示し，特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントモデルに図示した（Fig. 3）。

Table 4 具体的な取組内容と困難さ

観点	取組内容	困難さ
① 学校の教育目標に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標と各学部目標の関連性の検討（3） ・教育目標全体の内容及び文言の検討 ・教育目標と授業の関連性の検討 ・教育目標の教育課程編成への具体化の検討 ・教育目標の評価及び検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が教育目標と教育課程や授業のつながりを意識すること（4）
② 教育課程の実施状況の評価と改善に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・反省や学校評価の実施と改善（9） ・教育課程の各類型における各教科等の内容や時数の検討（3） ・指導の評価と教育課程の改善（2） ・授業研究や授業改善（2） ・実施体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通理解を図ること（5） ・反省を改善策につなげること（2） ・全教職員の意識を変えること ・小学部から高等部までの系統性を明確にすること ・校内研究での成果が教育課程の改善につながらないこと ・反省や評価に時間がかかること
③ 人的・物的な体制整備に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や特別活動等の検討，見直し（4） ・ICT機器の整備や活用（3） ・交流及び共同学習の検討，見直し（2） ・研修会の検討，見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動と感染症対策との両立に関すること（5） ・地域資源に関する情報不足 ・教職員のICT機器に関する不慣れさや理解不足 ・機器の購入等にかかる予算の確保 ・教職員の多忙感の増大

<p>④ 個別の指導計画に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様式の検討, 見直し (10) ・作成手続き検討, 見直し (4) ・年間指導計画の検討, 見直し(3) ・個別の教育支援計画との関連性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい手続きへ対応すること (5) ・教職員の理解不足 (4) ・実態に応じた様式の検討に関する こと (2) ・教職員の意識が低いこと ・各教科等の指導を実施すること に対する不満があること ・業務量の増加に関すること ・学部間の系統性を図ること
<p>⑤ 教育の内容に関する こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導の検討, 見直し (2) ・プログラミング教育や特別な教 科道徳, 外国語活動等の検討, 見 直し (3) ・デジタル教科書の活用 ・指導内容全体の検討, 見直し(2) ・各教育課程における各教科等の 取り扱いの検討, 見直し (7) ・指導の形態の検討, 見直し (3) ・重複障害等に関する教育課程の 取扱いについての指導計画の検 討, 見直し (2) ・重複障害等に関する教育課程の 取扱いについての理解推進 ・学習指導要領改訂における趣旨 理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導体制 (教科・領域別指導や各 教科等を合わせた指導) の検討や 整理をすること (5) ・重度・重複障害児に対する各教科 の指導を実施すること (5) ・重複障害等に関する教育課程の取 扱い (各教科等) に関する理解を 促すこと (3) ・各教科の指導内容や授業改善の方 法の検討と共通理解を図ること (3) ・学習指導要領改訂における趣旨の 理解不足 ・カリキュラム・マネジメントにつ いての理解不足
<p>⑥ 授業時数や時程 (時 間割を含む) に関す ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数 (単位数含) の見直し, 修正 (8) ・教育課程の類型の見直し, 変更 (2) ・補習の設定 ・時間割の検討 ・進路に関する学習内容を取り扱 う時間の検討 ・新設教科の授業時数の検討 ・重複障害児に対する各教科の時 数の検討, 見直し ・時数簿の様式の変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の確保に関すること (3) ・各教科の時数のバランスに関す ること (2) ・各教科等を合わせた指導に関する 授業時数の取扱い ・医療機関との調整 ・各教科の指導に関する教職員の理 解不足 ・各教科等を合わせた指導に関する 教職員の理解不足
	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に関する理解促進・校 内研修 (5) ・個別の指導計画や通知表の様式 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の理解不足 (6) ・多様な実態の児童生徒に応じた教 科毎の観点別評価の在り方の検

<p>⑦ 学習評価の改善(指導と評価の一体化)に関すること</p>	<p>の修正(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的教科の観点別学習評価への変更(三観点の導入)(2) ・学習評価におけるPDCAサイクルの確立 	<p>討(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務量の増加(2) ・年間指導計画と評価との関連性 ・評価方法の統一性のなさ
<p>⑧ その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教育課程の系統性の確認 ・各教科等を合わせ指導に関する校内研修の実施 ・学校運営への教職員一人一人の参画への意識化を図る ・取組についての発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のカリキュラム・マネジメントへの意識の低さ(2) ・各教科等を合わせた指導への教職員の理解不足 ・各教科等を合わせ指導の評価 ・教職員のカリキュラム・マネジメントへの理解不足

※()内は回答者数. 表示なしは1名を表す. 教師, 教員, 教諭は教職員に統一して表記した.

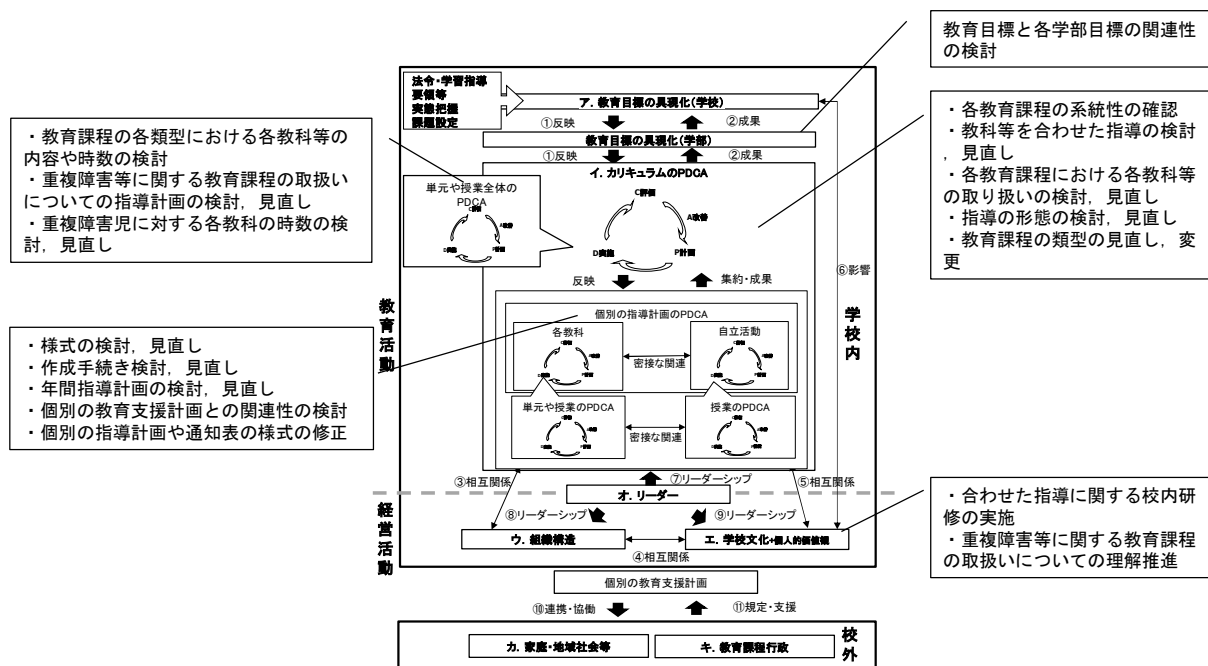


Fig. 3 特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの独自性

特別支援学校においては、同一学校内に複数の学部が設置されていることから、『ア. 教育目標の具現化(学校)』と『イ. カリキュラムのPDCA』の間に、「教育目標と各学部目標の関連性の検討」が必要となる。また、『イ. カリキュラムのPDCA』や『単元や授業全体のPDCA』においては、肢体不自由特別支援学校の各学部において複数の教育課程の類型が存在する(準ずる教育課程, 知的障害者を教育する特別支援学校における教育課程, 自立活動を主とした教育課程等)ことから、教育課程の系統性や関連性, それぞれの内容や時数についての検討が欠かせない。特に、肢体不自由特別支援学校に多く在籍する重複障害児に対する教育課程の検討は、肢体不自由特別支援学校のカリキュラム・マネジメ

ントの重要な取組の一つであることが分かった。また、指導の形態として実施されている各教科等を合わせた指導についても、時数や指導体制の見直し、検討が行われていた。カリキュラム・マネジメントの4つ目の側面として示されている『個別の指導計画のPDCA』についても、各学校「様式の検討、見直し」や「作成手続き検討、見直し」等、カリキュラム・マネジメントの一環として取り組まれていた。

カリキュラム・マネジメントを実施する上で挙げられた困難さでは、特に、「全教職員が教育目標と教育課程や授業のつながりを意識すること」「全教職員の共通理解を図ること」「全教職員の意識を変えること」「教職員の理解不足」「教職員の意識が低いこと」「各教科等の指導を実施することに対する不満があること」「各教科の指導に関する教職員の理解不足」「各教科等を合わせた指導に関する教職員の理解不足」といった、教職員の意識の低さや理解不足に関する課題が各観点で多く挙げられていた。川崎(2017)は、カリキュラム・マネジメント推進上の阻害要因として、各教職員の教育課程編成・実施における当事者意識の希薄さ、組織目標に関する認識の希薄さ等を挙げている。上述したように、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントにおいては、小・中学校等と比較して複雑な構造を有している。そのため、各教職員のより一層の共通理解の促進やカリキュラム・マネジメントに向けた意識改革が重要になると言える。

併せて「教職員の多忙感の増大」や「業務量の増加に関すること」といった、教職員の負担増加に関する困難さも挙げられている。いたずらに業務を増やすのではなく、「各学校がどのようにニーズと問題を焦点化して、優先順位をつけて、教育目標を設定するかは、各学校の創意工夫が必要になってくる」

(野澤, 2015)と指摘されるように、学校課題に対してどのように優先順位をつけるか、人的資源と物的資源をどのように配置するか、誰を中心に取組を実施するのかなど、カリキュラム・マネジメントの実施における組織的な検討が重要となる。特に、特別支援学校においては、特別支援学校学習指導要領に示された4つ目の側面である、授業と個別の指導計画や年間指導計画のPDCAをつなげ、教育課程の改善に向けてシステムとして機能させていくという視点が要点であることが、本調査を通して確認できた。

4 研究2 (面接調査)

(1) 対象

研究1の対象者に対して、面接調査の目的や質問項目等について説明し、同意が得られた4名(A～D教諭)を対象とした。

(2) 手続き

対象者4名に対し、半構造化面接を実施した。面接はweb会議システム(Zoom)を用いてオンラインで行った。時間は60分から80分程度であった。面接調査のやり取り(動画)を録画し、音声データを文字化し分析した。

(3) 質問項目

カリキュラム・マネジメントを促進するに当たって、意識していることや気を付けていることについて質問した(本稿においては、他の質問項目については、紙面の都合により割愛)。

(4) 分析方法

質問項目において得られた逐語録を以下の手順で分析した。

①質問項目について語られている部分を抜き出した。

②類似の内容をまとめ、カテゴリーを生成し、命名した。

(5) 調査実施期間

20XX年3月に実施した。

(6) 結果と考察

カリキュラム・マネジメントを促進するに当たって、意識していることや気を付けていることについて分析した結果、「教職員をつなぐ」「管理職と教職員をつなぐ」「事前に相談する」「分掌同士をつなぐ」「研究と分掌をつなぐ」という5つのカテゴリーが生成された。生成されたカテゴリーおよび発

言内容の抜粋について、Table 5に示した。

Table 5 カテゴリーおよび発言内容の抜粋

カテゴリー	発言内容の抜粋
教職員をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中の先生方をつなぐのが割と得意な方だと思っているので、そこなのかなっていうところで。まずじゃあそこでやってみようか。(A) ・ベテランの先生の方が学校のこと知っているので、(中略)皆で話し合っって決めていきます。いい方向にしていきたいと思いますってスタンスでやったのがよかったのかな。(A) ・若い発信だったり、中堅の先生が独自で取り組もうとしていることについては、全面的にバックアップしたり、紹介したりしながら学校の運営に携わっていただきたいなと思っています。それをつなぐ役割を果たさなければいけないなと思っています。(B) ・どんなお若い先生やベテランの先生とかすべて含めてなんですけども、普段から他愛もない話をしながら、関わりっていうのは大事にしながら過ごしております。(D)
管理職と教職員をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな細かいところでも様々な先生方から報連相、意見を吸い上げてそのことを私のところで留めておくのではなく、どんな細かいことでも管理職に伝えるようにはしています。(D)
事前に相談する	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方に必ず確認をとって、当たり前ではありますけども、そういうのも事前に会とか何かが始まる前に、要になる人には必ず前もって話をしつなぐみたいやり方はとりたいなと思って、それは意識して取り組んできている。(C) ・必ず関係する人には事前にお話を通して、動く。(C) ・報告・連絡・相談っていうところをとっても、(中略)大事かなって重視している。(D) ・組織っていうところになるので、周知の仕方っていうのかな？(中略)組織の連絡体制っていうのは大事にしている。(D)
分掌同士をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・今の課題を持って来年度について必要な分掌業務を(中略)どうつないでいくかというところを意識して進めている。(B) ・避難訓練の時期と、特別活動の安全の時期をどういうふうに学習で組み立てていくかなんていうことを分掌部の先生方と相談したり、食に関する指導の部分(中略)健康安全部ってところで計画を立てていただいて、それをどういうふうに先生方の指導の場におろしていくかというところに取り組んでいただいたり、少しずつそういう取組の連携の部分っていうのは見えてはきてるかなと思います。(B) ・児童生徒への対応や転入学、就職等についても、関係する分掌間で協働している。(C)
研究と分掌をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・進め方等々、(日常的に)たくさん相談を受ける。(B) ・(『研修部』『教務部』がともに作成した書類について)書き方がわからないとか、どういうふうにすればいいだろうという声もすごくいっぱい上がった時にも、『研修部』の方で、書き方のQ&Aっていうものを作成するようにしましょうっていうことで。(C) ・研修の主題研究の方とリンクさせながら取り組んでいる。(C)

カリキュラム・マネジメントの中核は、日々の授業の学習評価に基づき教育課程の評価・改善を図ることであり、そのための必要な組織体制を構築することである(一木, 2021)。特に、個別の指導計画

等の作成や評価に複数の教職員が関与し、授業場面においてもティーム・ティーチングが主流となる特別支援学校においては、カリキュラム・マネジメントを進めるためには、教職員間の協働が必要不可欠となる(小倉・松浦・立田, 2023)。中央教育審議会(2016)が取りまとめた「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)」においては、カリキュラム・マネジメントの実現に向けては、校長を中心としつつ、教科等の縦割りや学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことが示されている。そして、管理職のみならず、全ての教職員がカリキュラム・マネジメントの必要性を理解することに言及した上で、カリキュラム・マネジメントは、全ての教職員が参加することで、学校の特色を創り上げていく営みであるとしている。

本研究の対象者は、肢体不自由特別支援学校においてカリキュラム・マネジメントを中心的に担っている教師である。一部の教師だけがカリキュラム・マネジメントに取り組むのではなく、学校組織として共通理解を図り、協働することによってカリキュラム・マネジメントが促進するためには、教職員間や分掌間を「つなぐ」役割が重要だと考えていることが明らかとなった。

5 まとめ

肢体不自由特別支援学校のカリキュラム・マネジメントは、学部間や類型間の連続性や関連性、重度・重複障害児に対する目標設定や指導内容の設定、授業評価の難しさがある。安藤(2004)は、特別支援学校でのティーム・ティーチングによる指導を主流とした授業作りでは、教職員間の共通理解の難しさが課題となっていることを挙げた上で、教職員の「協働性」に着目した「学校教育改善モデル」としての「ティーム・アプローチモデル」を構築することの必要性を指摘している。本研究の結果からも、特別支援学校、特に肢体不自由特別支援学校においては、学校教育の改善に結び付く「協働性」を基盤としたカリキュラム・マネジメントの構築が強く求められると言える。

謝辞

本調査を快くご承諾いただいた各特別支援学校の校長先生、調査にご協力をいただいた先生方、関係者の皆様に深く感謝いたします。

付記

本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)特別支援学校における「協働性」を基盤としたカリキュラム・マネジメントモデルの構築(課題番号:21K02723 研究代表者:小倉靖範, 研究分担者:三浦光哉・佐藤貴虎・立田祐子・池田彩乃)の助成を受けた実施したものの一部です。

本稿では、「カリキュラム・マネジメント」の用語を使用していますが、書物や研究論文からの引用については、「カリキュラムマネジメント」と表記しています。

引用文献

安藤隆男(2004) 盲・聾・養護学校におけるセンター的機能の役割—教師の協働性に基づく専門性への転換. 特別支援教育, 14, 34-39.

中央教育審議会(2016) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申). 文部科学省, 2016年12月, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2023年11月3日閲覧)

一木薫(2021) 特別支援学校のカリキュラム・マネジメント—段階ごとに構築する実践ガイド—. 慶応義塾大学出版会.

池田彩乃(2022) 特別支援学校の授業づくりとカリキュラム・マネジメント, 三浦光哉(監修・編著), 山口純枝・小倉靖範(編著) 特別支援学校が目指すカリキュラム・マネジメント 参画チェックリストと7つの要素を動かす15の仕掛け. ジアース教育新社, 22-23.

菅野和彦(2019) カリキュラム・マネジメントを通じた学校の教育活動の質の向上—教育課程の編成を

軸にして－。特別支援教育, 76, 4-9.

川崎知己 (2017) カリキュラム・マネジメントの実現のための学校管理職としての課題と対応. 千葉商大紀要, 55 (1), 137-150.

三浦光哉 (監修・編著), 山口純枝・小倉靖範 (編著) (2022) 特別支援学校が目指すカリキュラム・マネジメント 参画チェックリストと7つの要素を動かす15の仕掛け. ジアース教育新社.

文部科学省 (2017) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領.

野澤有希 (2016) カリキュラム評価におけるCIPPモデルの文脈評価の意義に関する研究. 上越教育大学研究紀要, 35, 95-104.

小倉靖範 (2022) 特別支援学校の学校組織とカリキュラム・マネジメント. 三浦光哉 (監修・編著), 山口純枝・小倉靖範 (編著) 特別支援学校が目指すカリキュラム・マネジメント 参画チェックリストと7つの要素を動かす15の仕掛け. ジアース教育新社, 27-30.

小倉靖範・松浦孝寿・立田祐子 (2023) 特別支援学校における「協働性」を基盤としたカリキュラム・マネジメントの実現に向けた取組－高等支援学校 (知的障害) における学校文化・風土づくりの実践事例を通して－, 障害者教育・福祉学研究, 19, 1-9.

武富博文 (2018) カリキュラム・マネジメントを促進するために. 丹野哲也・武富博文 (編著), 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント. 東洋館出版, 27-40.

田村知子 (2011) カリキュラムマネジメントの実践方法. 田村知子 (編著), 実践・カリキュラムマネジメント. ぎょうせい, 12-13.

田村知子 (2016) カリキュラムマネジメントの全体構造を利用した実態分析. 田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵 (編著), カリキュラムマネジメント・ハンドブック. ぎょうせい, 36-55.

田村知子 (2020) 指導主事による学校のカリキュラム・マネジメント実現のための支援と助言. 村川雅弘・吉富芳正・田村知子・泰山裕 (編著), 教育委員会・学校管理職のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践. ぎょうせい, 53-65.